

平成28年度

# 授業改善推進プラン

大田区では、昨年につき平成28年4月に、「大田区学習効果測定」を行いました。

本校は、その結果に基づき、本校の課題と、その課題の解決を図るための方策を整理し、「授業改善推進プラン」を作成しました。この授業改善推進プランに基づき学力向上に向けた取り組みを推進していきます。



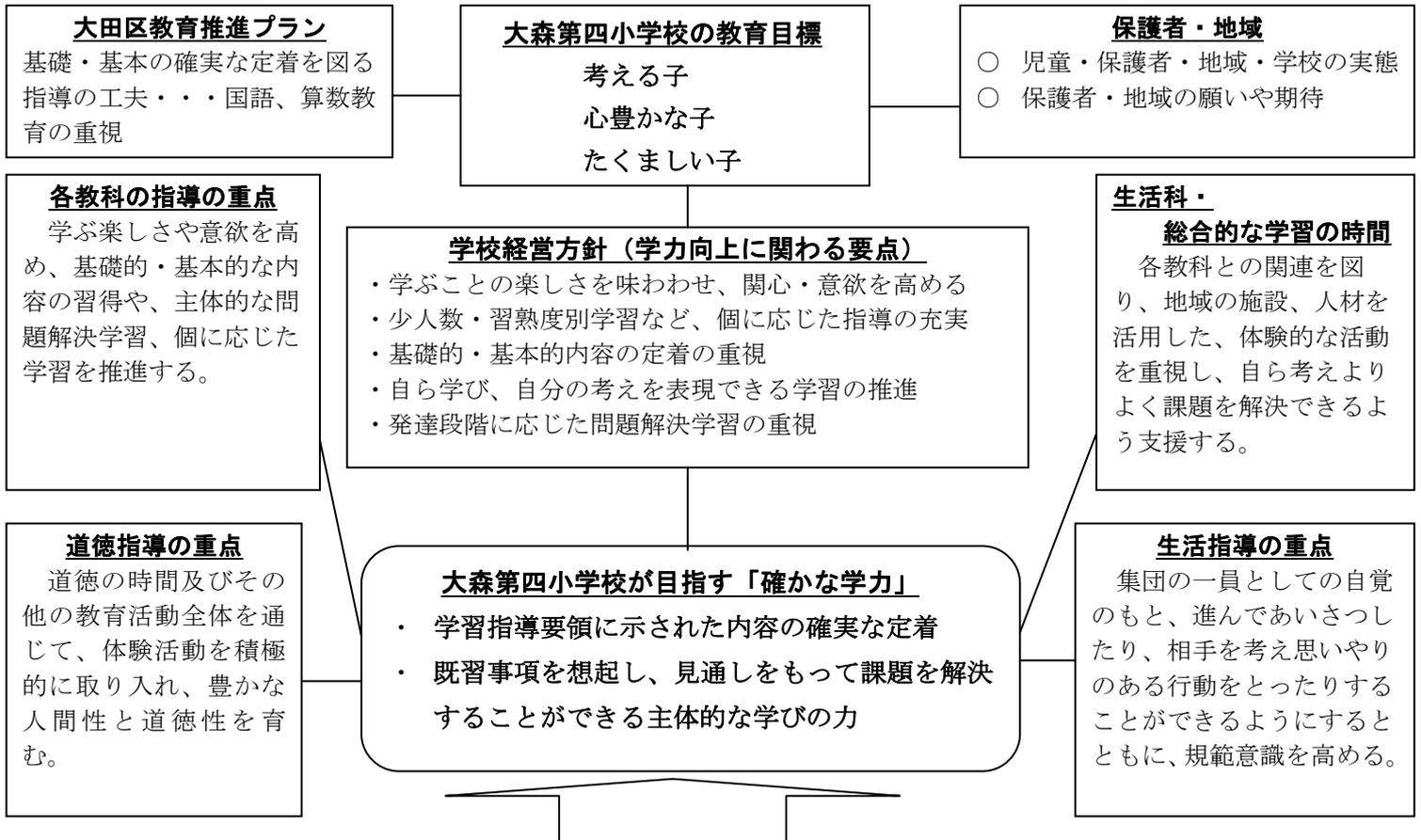
平成28年8月

## 大田区立大森第四小学校

### 学力向上を図るための調査の結果から

- ・ 全般的に昨年度よりは向上しているが、区の目標値を満たしていない項目が多く、基本的な内容の定着を図る必要がある。
- ・ 国語科では、基礎・基本となる「話す・聞く」「読む、書く」力が課題である。自分の考えをまとめ、伝えることができるように、「書かれていることを正確に読み取る」「書く事柄を明らかにする力」「文章を組み立てる力」「文章を見直す力」などについて全学年で系統立てた指導を行う必要がある。
- ・ 社会科では、「観察・資料活用の技能」の資料やグラフの読み取りや活用と、「思考・判断・表現」の収集した資料をもとに話し合ったり、自分の考えを深めたりすることが課題である。
- ・ 算数科では、「数量関係」の理解の定着と、「数学的な考え方」の育成が特に課題である。
- ・ 理科では、「観察・実験の技能」については条件設定や手順の理解が、「思考・判断」では予想理由や考察を考えることが特に課題である。

## 学力向上を図るための全体計画



### 学力向上に向けた視点 (下線はプランの実行性を高めるための方策)

教育課程の工夫	学習指導の工夫・改善	評価の工夫	家庭・地域との連携	研究・研修
○朝や放課後・土曜日、夏季休業中に国語・算数を主とした基礎・基本の学習の時間及び、読書タイムを設定し、基礎学力の定着及び読書習慣の形成を図る。 ○学校行事の見直しと効率化を進め、授業時間の確保に努める。	○習熟度別の学習を、算数を中心に進め、個に応じた指導の充実を図る。 ○漢字・計算・音読等を繰り返し指導することで基本的な学習の定着を図る。 ○問題解決学習を重視し共に、相互に学び合い、考えを表現したり、伝えたりする活動を多く設定する。 ○区漢字検定に加え、東京ベーシックドリルを活用し、大四算数検定を行う。 ○重要課題を明確にした「大四小ミニマム」を作成し、週案に貼付し、授業の指導内容の精査や教員の自己評価につなげる。	○評価規準、評価計画に基づいた自己・相互評価、教師による評価を随時行い、個々の児童の新たな学習への助言や個に応じた支援を適切に行う。 ○児童、保護者による授業評価を実施し、授業改善に生かす。	○全教育活動を通じ地域や保護者と連携することで教育効果の向上を図る。 ○保護者や地域のボランティアによる読書教育への支援体制を充実させる。 ○毎月の学年だよりに「家庭学習のすすめ」を発行し毎日の家庭学習を奨励するとともに、宿題の内容について工夫する。 ○学年×10分を目標に家庭学習をすすめる。	○確かな学力の定着のため、「確かな読みの力を育てる学習指導の工夫～国語科「読むこと」を通して～」を校内研究のテーマとして、全学年が授業研修を行う。 ○全学級での公開授業を行い外部の講師による指導を積極的に受ける。 ○自己申告に基づいた研究会・研修会への積極的な参加と成果の還元に努める。 ○若手教員を育成するための自主研修を行い、研修内容の充実を図る。 ○OJTの推進と充実を図り組織的な人材育成に努める。 ○大田区体力向上推進校として健康教育を推進するとともに、体育・健康授業地区公開講座を実施し地域への情報発信を行う。

## 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校 国語科）

### 1 国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果と課題

- 成果**
- ・ 下学年においては、音読練習を継続したことで、声の大きさや読む速さなどを意識したり、国語に対する意欲につながったりしている。
  - ・ 生活文や日記などの書く活動により、抵抗なく書くことができています。
  - ・ 学習効果測定の結果から見ると、5年生は、「関心・意欲・態度」「話す・聞く」「書く能力」「読む能力」の目標達成率が昨年度より5～15ポイント上がっている。6年生は、「関心・意欲・態度」「話す・聞く」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」の目標達成率が、昨年度より3～9ポイント上がっている。昨年度の学習の成果が表れている。
- 課題**
- ・ 漢字の練習を毎日の宿題に出したことで、定着している子もいるが、個人差がある。
  - ・ 下学年においては、「は」「へ」「を」の助詞、上学年に関しては、語彙力がしっかり身に付いていない。
  - ・ 読書量に関しては学年ごとに異なるが、文章の読解力が弱い。
  - ・ スピーチの機会を多く設けていても、声が小さかったり、要点を絞った内容で話すことができなかつたりする。
  - ・ 学習効果測定の結果から見ると、5年生は「言語についての知識・理解・技能」の目標達成率が、昨年度より6ポイント下がっている。語彙や文法における授業の改善が必要である。6年生は、「読む能力」の目標達成率が、昨年度より9ポイント下がっている。読書や読み取りの授業の改善が必要である。

### 2 国語科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>&lt;4年生&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4年生は、教科全体を見ると、目標値から、10ポイントほど下回っている。</li> <li>・ 「話し合いの内容を聞き取る」「漢字を読む」「物語を読み取る」に関しては、目標値よりも1～3ポイント下る程度に止まっている。普段の学習の聞き取りや漢字練習読書の成果と言える。</li> <li>・ 「漢字を書く」「説明文を読み取る」「調べた結果の表をもとに文章を書く」については、10ポイント近く下回っている。説明文の読み取りや書くことの指導を工夫していく必要がある。</li> <li>・ 「言葉の学習」に関しては、目標値よりも14ポイント下回っている。文法に関する学習を工夫していく必要がある。</li> <li>・ 「作文」に関しては、32ポイント下回っているが、作文の問題までたどり着かない子供が多かったと考えられる。</li> </ul> <p>&lt;5年生&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5年生は、教科全体を見ると、目標値から、4ポイント下回るが、昨年度の目標達成率からは13ポイント上昇した。</li> <li>・ 「物語の内容を読み取る」「説明文の内容を読み取る」に関しては、目標値より3～4ポイント上回っている。</li> <li>・ 「言葉の学習」「パンフレットをもとに話し合う」に関しては、6～7ポイント下回っている。</li> <li>・ 「漢字を書く」に関しては、目標値から24ポイント下回っていて、継続的な漢字の学習が必要である。</li> </ul> <p>&lt;6年生&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6年生は、教科全体を見ると、目標値から、10ポイント下回る。4年次から目標達成率はあまり変化がない。</li> <li>・ 「物語の内容を読み取る」に関しては、目標値から3ポイント下回るに止まっているが、「説明文の内容を読み取る」に関しては、10ポイント近く下回っていて、特に説明文の読み取りの学習に工夫が必要である。</li> <li>・ 「話し合いをもとに活動報告を書き直す」「作文」に関しては、目標値より8ポイント下回っている。</li> <li>・ 「言葉の学習」に関しては、目標値を11ポイント下回っていて、4、5年生同様、文法に関する学習を工夫していく必要がある。</li> <li>・ 「漢字を書く」「漢字を読む」に関しては、それぞれ、9ポイント、21ポイント目標値より下回っていて、継続的な漢字の学習が必要である。</li> </ul>
----------	--

観 点 別 結 果 の 分 析	<p>○国語への関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生は目標値を2ポイント上回り、昨年度より約8ポイント向上した。4年生は16ポイント、6年生は6ポイント下回るが、5年時よりは1ポイント向上した。</li> </ul> <p>○話す・聞く能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4、5、6年生のどの学年も目標値まであと少しで、2～5ポイントほど下回っている。5年は4年時よりも16ポイント、6年は5年時よりも4ポイント向上した。スピーチや発表の機会を多く取り入れた結果と考えられる。</li> </ul> <p>○書く能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生が目標値に2ポイント足りなかったが、4年時よりは16ポイント向上した。自分の考えを書く力や文章の構成を工夫して書く力がまだ十分に身に付いていない。6年生は目標値を7ポイント下回り5年時とほぼ同じ、4年生では25ポイント下回っている。書く指導の改善が必要になる。</li> </ul> <p>○読む能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生は目標値を2ポイント上回り、4年時より15ポイント向上した。4、6年生においては、目標値から7ポイント下回っており、特に6年は5年時より9ポイント下がった。学年が上がるにつれて内容や文章構造が複雑になるため、読解力がより高く求められるためと考えられる。子供たちは読書は好んでするので、要旨を捉えて読む力や表現の良さを感じとって読む力を身に付ける必要がある。</li> </ul> <p>○言語事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学年も目標値から9～13ポイント下回っているが、6年は5年時より6ポイント、5年は4年時より10ポイント向上している。漢字の読み書きを中心に、普段から語彙力を高める学習が必要である。</li> </ul>
--------------------------------------	--

### 3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

課 題	改善の方針
<p>○意欲・関心・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話す・聞く」「書くこと」に関して、関心・意欲が低い。</li> </ul> <p>○話す・聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中心になることを意識して話せなかったり、話し手の意図を考えて内容を聞いたり、メモを取ったりする力が十分についていない。</li> </ul> <p>○書くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理由や事例を挙げて自分の考えを書く力が不十分である。</li> </ul> <p>○読むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・要旨を捉えて読んだり、場面の情景や叙述を想像して読んだりする力が不十分である。</li> </ul> <p>○言語事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の読み書きや語句・語彙の理解が十分でなかったり、文の構成をきちんと理解していなかったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常のことや児童が興味をもてる内容で、スピーチや日記を書く活動を定期的に行う。</li> <li>・スピーチの機会を増やすとともに、二人で話す、グループで相談する、クラスで検討するなど、授業形態を工夫して話す機会を増やす。また、聞いたことや考えたことがまとまるように、メモを書く活動を取り入れる。</li> <li>・相手や目的を意識して、組み立てメモを活用して書く活動を継続させる。</li> <li>・重要語句を押さえると共に、文章全体の構成を捉える読みを重視する。また、読書や読み聞かせを継続指導する。</li> <li>・継続的に漢字の読み書きを取り入れると共に、辞書を活用したり、写真や実物を見せたりして語彙を増やしていく。また、文の構成に関しては、主語、述語など、文の構成に関する指導を増やす。</li> </ul>

### 4 国語科の授業改善策

<p>○意欲・関心・態度</p> <p>興味をもってスピーチや日記を書く活動を行うために、</p> <p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の会や帰りの会などで、身近なことや経験したことなどから話題を決めて話す機会を繰り返しもつ。</li> <li>・「あのね」日記を使って、経験したことや自分の考えを書く活動を定期的に取り入れる。</li> </ul> <p>2年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチなどで、自分が発見したり、経験したりしたことや児童が興味をもちそうなことから話題を決めて話す機会を繰り返しもつ。日記を書く学習を継続的に行う。</li> </ul>
---

- 3年 ・スピーチなどで、自分が発見したり、経験したりしたことや児童が興味をもちそうなことから話題を決めて話す機会を繰り返しもつ。  
 ・行事の後に作文を書く機会を設け、書く意欲が持てる場を設定する。
- 4年 ・一人で話す（スピーチ）、二人で話す、グループで相談する、クラスで検討するなど、授業形態を工夫して話す機会を増やす。自分が発見したり、経験したりしたこと、児童が興味をもちそうなことから話題を決めて話す機会を繰り返しもつ。日記や行事作文の他に意見文を書く練習をさせ、書く機会を多く設ける。
- 5年 ・小グループや学級全体など話し合いの機会を意図的に設定し、自分が発見したり、経験したりしたこと、児童が興味をもちそうなことから話題を決めて話す機会を繰り返しもつ。日記や意見文をはじめ、他教科でも積極的に書く活動を取り入れる。
- 6年 ・少人数のグループで話し合う時間を取ることで、一人一人が話す機会を増やす。自分が発見したり、経験したりしたこと、児童が興味をもちそうなことから話題を決めて話す機会を繰り返しもつ。日記や意見文をはじめ、他教科でも積極的に書く活動を取り入れる。

#### ○話す・聞く

中心になることを意識して話したり、話し手の意図を考えて内容を聞いたり、メモを取ったりする力を育てるために、

- 1年 ・朝の会や帰りの会などのスピーチで、身近なことや経験したことなどから話題を決めて話す機会を繰り返しもつ。また、質問をすることで、大事なことを落とさないで聞く習慣を付けさせる。
- 2年 ・スピーチなどで、自分が発見したり、経験したりしたことが相手に分かるように話す機会を繰り返しもつ。  
 ・メモの取り方を提示してから、スピーチなどでメモを取る練習を継続的に行う。
- 3年 ・「よい聞き手になろう」では出来事の説明や調査の報告をしたり友達同士の意見を聞いたりすることで話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりする力をつけさせる。  
 ・「つたえよう、楽しい学校生活」では、自分の考えを伝える機会を増やすとともに、話型や声の大きさに気をつけて話したり、意見を述べ合ったりする活動を通して必要な事柄を調べたり要点をメモする力を付けさせる。
- 4年 ・一人で話す（スピーチ）、二人で話す、グループで相談する、クラスで検討するなど、授業形態を工夫して話す機会を増やすとともに、聞いたことや考えたことがまとまるように、メモを書く活動を継続的に取り入れる。
- 5年 ・小グループや学級全体など話し合いの機会を意図的に設定し、自分の考えを伝えたり友達の意見を聞いたりして考えを深めたり広めたりできるようにする。  
 ・話を聞く時のメモの取り方を工夫し、ポイントをしばって聞いたりまとめたりできるようにする。  
 ・メモをもとにして、自分の考えを分かりやすく伝える活動を取り入れる。
- 6年 ・少人数のグループで話し合う時間を取ることで、一人一人が話す機会を増やす。  
 ・スピーチをすることで、自分の考えをまとめ分かりやすく伝える力を伸ばす。  
 ・話を聞く時のメモの取り方を工夫させる。

#### ○書くこと

理由や事例を挙げて自分の考えを書く力を高めるために、

- 1年 ・「あのね」日記を使って、経験したことや自分の考えを書く活動を定期的に取り入れる。  
 ・行事の後だけでなく、定期的に日常の出来事や経験したことを作文で書く活動を取り入れる。
- 2年 ・日記を書く学習を継続的に行い、自分が経験したことを思い出して、順序よく書く。また、お互いの文章を読み合うことで、自分が書くときの参考として書くようにさせる。
- 3年 ・行事の後に作文を書き、書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くようにさせる。作文を書く前に、「書くって楽しいね」で書き方の要点をおさえさせてから書くようにさせる。  
 ・「ありがとうをつたえよう」で目的に合わせてお礼状やあいさつ文を書いたり、「食べ物のひみつを教えます」で収集した資料を効果的に使い説明をする文章を書いたりする活動を通して、書くことの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く力を付けさせる。

- 4年 ・日記や行事作文の他に「自分の考え→理由や事例」といった頭括型、「理由や事例→自分の考え」といった尾括型、「自分の考え→理由や事例→自分の考え」といった双括型の意見文を書く練習をさせる。  
 ・作文を書くとき組み立てメモを書いたり、「書くって楽しいね」などを活用したりして、文章の書き方を指導する。また、推敲の仕方でも指導し、自分が書いた作文を推敲させる。
- 5年 ・日記や意見文をはじめ、他教科でも積極的に書く活動を取り入れる。  
 ・書きたいことの内容を明確にし、「始め、中、終わり」を意識して、文章を書く活動に取り組みさせる。  
 ・具体的な文章が書けるようにモデルを示す。
- 6年 ・日記に取り組むことで、日常的に書く活動を多く取り入れる。  
 ・自分の考えを明確にして文章が書けるように、書き方のモデルを提示する。また、理由や例示を挙げることで、具体的に書けるように指導する。

#### ○読むこと

要旨を捉えて読んだり、場面の情景や叙述を想像して読んだりする力を育てるために、

- 1年 ・音読カードを使い、宿題などで教科書の物語や説明文、音読集の詩などを音読することで、読む習慣を身に付けさせる。
- 2年 ・国語の単元計画の中で、「読解」の時間を多くとるようにする。文章を読んで自分が思ったことや想像したことなどを書き出す活動を繰り返し行う。  
 ・読み物教材の単元では並行読書などを取り入れて、読書に興味を持たせる場を設定する。  
 ・読み取りの授業では一つ一つの言葉を大切に、具体物を見せたり、語彙の確認を行ったりして読みを深めさせる。
- 3年 ・「こまを楽しむ」で記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合う活動を行う。中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見の違いを考えて文章を読む力をつけさせる。  
 ・「ちいちゃんのかげおくり」「モチモチの木」の物語を読み、感想を述べ合う活動を通して、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、重要語句や叙述を基に想像して読む力を養う。また、読書や読み聞かせを継続的に行う。
- 4年 ・説明的な文章では、中心となる語句や文を押さえると共に、段落相互の関係や文章全体の構成を捉える読みを重視する。  
 ・文学的文章では、場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述に即して読む力を養う。  
 ・読書の時間を確保し、定期的に本の貸し出しを行ったり、読み聞かせやブックトークをしたりして、本の紹介をさせる。  
 ・定期的に説明的な文章資料を読んで、どんなことが書いてあるか読み取りをしたり、資料の内容に対する感想を書いたりする課題を出す。
- 5年 ・自分の知識や経験、考えなどを重ね合わせながら、場面の移り変わりや情景を想像して読む活動に取り組む。また、自分の立場から書かれている意見についてどのように考えるか意識して読むようにさせる。  
 ・叙述に即して読めるように、本文に線を引かせたり、本文を引用して考えを書かせたりする手立てを取る。  
 ・読書に親しむために、読み聞かせや本の紹介をする機会を取り入れる。
- 6年 ・読書量を増やすために、読書の時間を取り入れたり、おすすめの本を紹介し合ったりさせる。  
 ・読み聞かせの機会を増やす。  
 ・説明文では、文章全体の構成を捉えながら読めるよう教材を工夫する。  
 ・場面の情景や叙述を想像して読めるように教材やワークシートを活用したり発表の場を工夫したりする。

#### ○言語事項

漢字の読み書きや語句・語彙の理解ができ、文の構成をきちんと理解して正しく文法を使いこなす力を育てるために、

- 1年 ・連絡帳を書くことで、長音、拗音、促音、撥音、助詞の「は」「へ」「を」を正しく使う習慣を身に付けさせる。

- 2年
- ・新出漢字は、毎日少しずつ学校での学習と家庭学習を継続的に行う。また、定着を図るためにミニテストを繰り返し行う。
  - ・「書くってたのしいね」を使って、定期的に文法の学習を取り入れていく。
- 3年
- ・朝学習の時間等で継続的に漢字練習を行ったり、書く活動では既習の漢字を使ったりさせるようにする。また、年間2回の区の漢字検定で、昨年既習した漢字を復習させる。
  - ・どの教科でも、学習中に出た分からない語句は自分の辞書で調べる習慣をつけさせる。また単元で関係のある写真や実物を見せる等で語句・語彙の理解をさせる。
- 4年
- ・継続的に漢字の読み書きの指導を行い、テストを実施し定着を図る。また、その漢字を使った熟語の使い方も併せて指導し、語彙を増やさせる。
  - ・年間2回の区の漢字検定で、既習した漢字を復習させる。
  - ・漢字の書き方や意味が分からない言葉は、積極的に辞書を活用し、辞書を引く習慣を付けさせる。
  - ・ローマ字の復習を定期的に行い、ローマ字の読み書きを定着させる。
- 5年
- ・毎日の授業で、新出漢字の練習と共に、既習漢字の復習を行う活動の時間をとり、漢字の書き取りの力の向上に取り組ませる。
  - ・漢字の復習テストを継続的に行い、定着を図る。
  - ・宿題や朝自習を活用し、漢字練習に取り組ませる。
  - ・難しい語彙が出たら、辞書で調べたり用例を紹介したりして、使い方を理解させる。
- 6年
- ・漢字の小テストを継続して行う。
  - ・辞書を活用し、語彙を増やさせる。
  - ・既習の漢字が定着するよう文章作りを行ったり漢字の復習をしたりさせる。

# 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校 社会科）

## 1 社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

- ・中学年においては、見学や体験学習を取り入れることにより、社会科に対する意欲・関心を高めることができた。
- ・町たんけんや絵地図作りなどの具体的な学習を通して、四方位や地図記号の理解や定着を図ったが、十分な成果を上げていない。地図記号を覚えるだけでは、地図を読み取る力は向上しない。4年生以上の学年で地図帳を活用する機会を増やすことが必要である。
- ・高学年においては十分に社会科に対する意欲・関心を高めることができなかった。具体的な資料や映像資料を活用したり、自分たちの生活と結びつけて考え、ニュースや新聞の話題などを授業に取り入れれたりして興味・関心をもたせることが必要である。
- ・高学年においては、調べ学習の機会を多く取り入れたが、そこから分かったことや自分の考えを適切に表現することが苦手な児童が多い。
- ・グラフの読み取り方のポイントを細かく丁寧に指導することで、読み取り方が分かる児童が増えた。
- ・地図帳クイズや世界の国々クイズなどを取り入れたことで、世界の国々や都道府県の特徴に興味をもって調べようとする児童が増えた。

## 2 社会科における調査結果の分析

### 内容別結果の分析

#### <4年生>

4年生の平均正答率は、全体で目標値とほぼ同じであった。基礎的な内容の理解は目標値を上回っているが、知識を基に与えられた複数の条件を組み合わせて図示する、あるいは文章で記述する問題の正答率が低い。このことから、「設問を正確に読み取り、何を問われているのかを把握する」「資料から分かる事実を正確に読み取り背景にある理由を文章で記述する」学習を重ねていく必要がある。

#### ○地域や市の様子

昨年度は、絵地図の読み取りの問題の正答率が5～10ポイント低かったが、今年度はほぼ同じであった。今後も「町たんけん」の単元等で、地図記号や方位磁針の使い方の指導、地図を使用してたんけんコースを図示する学習を繰り返し行っていくことが大切である。

#### ○生産や販売

全体的に目標値とほぼ同じである。今後、資料やグラフ、設問を正確に読み取る力の育成に向けての授業への取り組みが必要である。

#### ○先人の働き

正答率が目標値を2ポイント下回っている。昔の道具を使ったり、地域の高齢者を招いたりしての体験活動や郷土博物館を見学しての調べ学習など授業のクフをすることが必要である。

#### <5年生>

5年生の平均正答率は、全体で目標値を約3ポイント下回った。「安全なくらしー交通事故や事件ー」は目標値を4ポイント上回ったが、「安全なくらしー火事ー」や「地域の発展につくした人々」は5～6ポイント下回った。また、「地図の見方」や「県の様子」は9ポイント下回っている。地図を読み取り、複数の情報について答える問題の正答率が特に低かった。地図帳の使い方、縮尺、地勢図の読み取り方の指導が必要である。

#### ○安全を守る活動

4つの領域の中では、比較的正答率の高かった領域である。予想を立て、副読本や教科書で調べたり、見学をして話を聞いたりするなど「予想→調べる→まとめる」といった問題解決的な学習の流れを大切にしていける必要がある。

#### ○生活環境を守る仕事

清掃工場を見学したり、水道キャラバンなどを活用したりするなど体験的な学習を行ったこともあり、正答率は目標値とほぼ同じである。学習が見学や体験だけで終わってしまうのではなく、「予想→調べる（見学、体験学習）→まとめる」といった学習の流れを行うことが大切である。

	<p>○先人の働き 目標値に対して6ポイント低かった。事例として授業で扱っていない内容なので正答率が低かったと思われるが、年表やグラフなどの資料の読み取り方を丁寧に言い、複数の資料から考える指導が必要である。</p> <p>○県の様子 目標値に対して10～20ポイント低かった。地勢図や人口分布図などいろいろな種類の地図の読み取りをある程度時間をかけて丁寧に指導する必要がある。</p> <p>&lt;6年生&gt; 6年生の平均正答率は、目標値を15ポイント下回っており、全体的に学習内容の理解が不十分なので、ワークテストなどを活用して、復習することが必要である。グラフや表の読み取りを丁寧に行うことにより、学習内容をより確実に、より深く理解することができるようになった。複数の資料を関連付けて必要な情報を読み取ることが難しく、棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ等を丁寧に読み取らせ、複数の資料を関連づけて考えさせる指導が必要である。また、自分たちの生活と結びつけて考えたり、ニュースや新聞の話題などを授業に取り入れたりして興味・関心をもたせることが必要である。</p> <p>○国土の自然などの様子 目標値より、15ポイント低かった。日本の周りの大陸名や海洋名、日本の国土の地形の概要、国旗など基本的な学習内容の確実な理解が必要である。また、様々な種類の地図や写真を関連づけて考えさせる指導が必要である。</p> <p>○農業や水産業 目標値より10ポイント低かった。大田区では実際に農作業体験や見学をすることが難しいので、写真・ビデオ・動画等、教材を工夫して提示する必要がある。</p> <p>○工業生産 「太平洋ベルト」や「日本の貿易相手国」についてなどの理解がかなり低かった。復習の機会をとり、学習内容の定着を図る必要がある。</p> <p>○情報産業や情報化社会 目標値より12ポイント低かった。情報については、日進月歩で進んでいるので、常に新しい動向に注意しながら、児童の生活と結びつけながら考えることのできる授業を工夫することが大切である。</p>
観 点 別 結 果 の 分 析	<p>○意欲・関心・態度 4・5・6年生どの学年においても目標値より低く、学年が上がるほどその傾向が強い。「しっかりしたためあてをもたせ、見学や体験学習を行う。」「写真やビデオなどの視聴覚教材を多く取り入れる。」「ニュースや新聞などを取り上げ、身近な生活と学習内容を関連させる。」など学習活動や資料の提示の仕方を工夫していくことが大切である。</p> <p>○思考・判断・表現 4・5・6年生どの学年においても目標値より3～10ポイントほど低い。しかし、4・5年生においては昨年度より正答率が伸びている。調べたことや見学、体験したことをまとめるだけでなく、分かったことや自分の考えをノートに書いたり、話し合ったりして自分の考えを深めることができる児童が少ない。設問を正確に読み取り、何を問われているかを把握する。そして資料から分かる事実を正確に読み取り、背景にある理由を文章で記述する学習を積み重ねていくことが大切である。</p> <p>○技能 4・5・6年生どの学年においても目標値より1～15ポイントほど低い。しかし、4・5年生においては昨年度より正答率が伸びている。いろいろな種類の地図の読み取りや都道府県を確実に覚えている児童は少なく、棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ、地勢図、分布図などのグラフや資料の読み方を丁寧に指導し、複数の資料を関連づけて考えさせる指導が必要である。</p> <p>○知識・理解 4・5・6年生どの学年においても目標値より2～17ポイントほど低い。しかし、4・5年生においては昨年度より正答率が伸びている。中学年で方位、地図記号、都道府県の指導を行ったが確実に覚えている児童は少なく、くり返し指導することが必要である。高学年では、視聴覚教材やニュースなどを活用したり、ミニテストをしたりして、学習内容の理解を定着させることが大切である。</p>

### 3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

課 題	改善の方針
<p>○意欲・関心・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの住む地域や東京都、日本の産業や歴史、国際関係などの社会的事象についての意欲・関心が低い。</li> </ul> <p>○思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見学等で情報を収集し、資料を活用して表現する力が十分でない。</li> </ul> <p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な地図やグラフなどの資料を読み取ったり、活用したりする力が不十分である。</li> </ul> <p>○知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地図記号や方位、都道府県の位置、主な山・川・平野、大陸名や海洋名、国旗などの理解が不十分である。</li> <li>歴史上の人物や出来事の理解が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明確なねらいや目的をもって、見学や体験学習を行う。</li> <li>実物や模型、映像資料、ニュースや新聞などの記事など児童が興味を示しそうな資料を活用し、自分の生活と結び付けて、学習を進めるようにする。</li> <li>収集した情報をできるだけ正しく記録させ、まとめたり発表させたりする。</li> <li>調べて分かったことや考えたことを小グループで話し合わせ、表現する機会を多くもつ。</li> <li>白地図だけでなく、地勢図や分布図などを活用した学習を通して、地図記号の必要性を実感させたり、各種のグラフや地図の読み方を丁寧に行ったりする。</li> <li>棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ等のグラフを丁寧に読み取らせ、複数の資料を関連付けて考えさせる指導が必要である。</li> <li>地図帳を使う機会を増やしたり、ミニテストを行ったりして地図記号や都道府県などを確実に覚えさせる。</li> <li>歴史を流れて覚えさせると共に年表などの資料を活用し、時代背景を捉えられるようにする。</li> </ul>

### 4 社会科の授業改善策

<p>○意欲・関心・態度</p> <p>自分たちの住む地域や東京都、日本の産業や歴史、国際関係などの社会的事象についての意欲・関心を高めるために、</p> <p>3年 ・「くらしと商店」や「くらしと工場」では、明確なねらいをもって、見学や体験活動を行う。</p> <p>4年 ・「しっかりしたためあてをもたせ、見学や体験学習を行う」「写真やビデオなどの視聴覚教材を多く取り入れる」「ニュースや新聞などを取り上げ、身近な生活と学習内容を関連させる」など、学習活動や資料の提示の仕方を工夫していく。</p> <p>5年 ・実際に見学や体験をすることが難しいため、単元に関係する映像資料などの視覚教材を授業の中で活用し、産業や環境についての意欲・関心をもてるようにする。</p> <p>6年 ・映像資料や新聞、ニュースなどを活用し、意欲を高める。</p> <p>○思考・判断・表現</p> <p>見学等で情報を収集し、資料を活用して表現する力を高めるために、</p> <p>3年 ・収集した情報をできるだけ正しく記録させ、まとめたり発表させたりする。</p> <p>4年 ・調べたことや見学・体験したことをまとめるだけでなく、分かったことや自分の考えをノートやワークシートに書いたり、話し合ったりして自分の考えを深める学習を工夫する。</p>	<p>・調べ学習の機会をできるだけ多くとり、児童の興味・関心を高めさせる。</p> <p>・学習問題や本時のねらいを正確に把握し、調べたことや資料から分かる事実を正しく読み取り、自分の考えを文章で記述したりグループで話し合ったりする学習を積み重ねていく。</p>
--	---

- 5年 ・映像資料やグラフの読み取りについて理解を深め、グラフから読み取ったことや映像資料を見て気付いたことをノートにまとめ、友達に発表したり新聞等に表したりする指導を行う。
- 6年 ・いろいろな資料から情報を読み取り、自分の考えを書き表し、グループやクラス全体で伝える場を設定する。
- ・課題に対して文章で答える機会をもつ。

#### ○技能

様々な地図やグラフなどの資料を読み取ったり、活用したりする力を高めるために、

- 3年 ・白地図を活用した学習を充実させる。大田区の高低差は色を使い、視覚的に理解させる。グラフの読み取りは拡大した資料を掲示し、読み方を丁寧に行う。
- 4年 ・適宜、地図記号等を復習し地図の読み取り練習をしたり、ゲーム的な要素を取り入れた活動を取り入れたりする。ミニテストを行い、地図記号や都道府県を確実に覚えるようにする。また、地図の出前授業をきっかけにして、普段から地図帳を使う習慣を付け、地図帳の使い方に慣れさせる。
- ・棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフなどのグラフや資料の読み方を丁寧に指導し、全体の傾向をとらえたり、複数の資料を関連付けて考えさせたりする指導を適時行う。
- 5年 ・白地図を活用して、各産業の盛んな都道府県を表したり、地図帳を活用して地域の場所を調べたりし、地図に慣れ親しませるとともに、読み取る力を伸ばす指導を行っていく。
- 6年 ・年表や写真、絵巻物など資料を活用した学習を取り入れ、資料を読み取る時の観点を与えながら、丁寧に資料を読み取らせる活動を行う。

#### ○知識・理解

地図記号や方位、都道府県の位置、主な山・川・平野、大陸名や海洋名、国旗、歴史上の人物や出来事などの理解を高めるために、

- 3年 ・大田区の地図を使い地図記号を確実に覚えさせる。
- 4年 ・方位、地図記号、都道府県の位置など、くり返し指導したりテストを行ったりして確実に身に付けさせるようにする。
- ・大切な用語や普段あまり使わない用語は、カードに書いて具体的に内容の説明を行い、理解の定着を図る。
- ・自作テストやワークシートなどを活用して、学習内容の理解を定着させる。
- 5年 ・産業を取り扱う時に、地図帳を活用して、学習する地域の周辺の都道府県を取り上げたり、東京都との位置関係をつかませたりする指導を取り入れ、都道府県の位置の知識を高める
- ・授業の初めに、方位や都道府県、日本や世界の地理について押さえる。
- 6年 ・ポイントを押さえることで、大事な事柄を確実に覚えたり定着したりできるようにする。
- ・年表や資料集を活用して、歴史を流れで覚えられるようにする。
- ・身近な生活の中で、政治とのかかわりを具体的に取り上げ、授業と関連付けて理解させる。

## 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校 算数科）

### 1 算数科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<b>取り組みにおける成果と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を操作したり図をかいいたりするなどの算数的活動を取り入れたことにより、算数に興味・関心をもち、理解を深める児童が増えてきた。</li> <li>・計算カードやプリントの活用、繰り返し既習事項を振り返ることで計算の習熟を図ることはできた。</li> <li>・習熟度別学習で、個々のつまずきに対応でき、つまずいている部分の理解ができるようになってきた。</li> <li>・言葉とブロックなどの具体物の操作を対応させて、問題文の意味を理解させる指導をしてきたが、文章題の読み取りが難しい児童がいる。</li> <li>・身の回りのものを使って時間、かさ、長さの習熟に取り組んできたが、定着が難しい児童がいる。</li> <li>・立式の時に、数直線図や図などを用いて考えることを指導してきたが、十分身に付いているとはいえない。</li> <li>・かけ算九九、小数・分数の計算など基本的な計算方法が定着していないことが、新しい学習に支障をきたしている。</li> </ul>
----------------------	---

### 2 算数科における調査結果の分析

<b>内容別結果の分析</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「数と計算」の内、「計算の復習」の平均正答率は4年生だけが目標値を上回っている。しかし、学年が上がるに連れて、目標値に達しない割合が増加している。特に「小数」「わり算」は、平均正答率と比較して開きが目立っている。また、計算の意味を理解したり、説明したりする力は十分に付いているとはいえない。</li> <li>・「量と測定」は、4年生はおおむね区の目標値に達している。5・6年生では、基本的な面積・体積は正しく求められるが、複合図形や条件を変えて考察する問題の理解ができていない。</li> <li>・「図形」については、おおむね4・5年生は昨年より上昇している。しかし、6年生は大きく下回っている。このことから、図形についての「観察や構成」に重点をおき、反復（スパイラル）による学習指導をする必要がある。</li> <li>・「数量関係」では、4・5年生については区の目標値にほとんどの問題で達している。しかし、6年生では、大きく下回っている。「百分率」など小数の正しい計算が必要であり、内容が難しくなるためである。5・6年生では、反復（スパイラル）による学習指導を徹底的に行う必要もある。</li> <li>・6年生は、全体的に目標値を下回っており、基本的な学習事項を繰り返し復習する必要がある。また、学習意欲を引き出す工夫をしていく必要がある。</li> </ul>
<b>観点別結果の分析</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関心・意欲・態度             <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値達成率は、全学年で下回っている。特に、算数に苦手意識をもっている児童の自信を取り戻すことが必要である。「算数的活動」を授業に積極的に取り入れ、算数学習の楽しさを感じさせたり、基本的な計算の復習を繰り返して定着を図ったりして、自信を育てていくことが課題である。特に6年生では、4年時から年々ポイントが下がってきており、授業を通して学習の楽しさ・自信を育てていかなければならない。</li> </ul> </li> <li>○数学的な考え方             <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値達成率は4、5年生で目標値に達している。ただ、6年生は20ポイント近く目標値を下回っている。5年生は4年時より11ポイント上回っている。</li> </ul> </li> <li>○数量や図形についての技能             <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年で目標値に20～30ポイント達していないのが現状である。学年が上がるにつれて内容が難しくなるので、反復（スパイラル）による学習指導を行う必要がある。</li> </ul> </li> <li>○数量や図形についての知識・理解             <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年で目標値に達していない。学年が上がるにつれて、約10ポイントずつ下回っている。課題の意味や性質を正しく理解させるために、作業的・体験的な活動を取り入れたり、視覚的に分かりやすい説明を聞かせたりして理解を深めることが必要である。</li> </ul> </li> </ul>

### 3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

課題	改善の方針
<p>○算数への関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>算数に苦手意識をもっている児童がいるので、自信を取り戻すための手立てが必要である。</li> </ul> <p>○数学的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な計算は出来るのに、計算の仕方や意味を説明するとなると途端に出来なくなる児童が多い。各領域において、数学的な考え方に取り組み、育成する必要がある。</li> </ul> <p>○数量や図形についての技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい技能を習っても、学校で繰り返し取り組まないと忘れてしまう児童が多い。</li> </ul> <p>○数量や図形についての知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数直線図や図を用いて立式できなかつたり、式を、言葉、図、表、グラフなどと関連付けて用いて自分の考えを説明できなかつたりする児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年ごとに算数的活動を明確化し、授業で取り組む時間を確保する。</li> <li>基本的な計算方法などの復習を繰り返す。</li> <li>数学的な考え方に取り組む単元や、重点箇所を各学年で明確化し、意識を統一する。</li> <li>3年生から自分の考え、友だちの考え、学習のふり返りを書かせ、数学的な考えを育成する一助にする。</li> <li>考える能力と表現する能力とは互いに補完しあう関係にあるので、考えを表現する場面（全体に発表したり、ペアで考えを伝えたり）を授業中に取り組む時間を確保する。</li> <li>計算は、計算カードやプリントを使って繰り返し計算練習させる。</li> <li>特に、わり算の復習や、小数・分数の計算練習を重点的に行う必要がある。</li> <li>図形では、「観察や構成」に重点をおき、作業的・体験的な活動や使う道具を学年で明確化し、取り組む。</li> <li>各学年で学習し身に付けたものを、日常生活や他教科等の学習へ活用し、習熟させていく。</li> <li>「式の表現と読み」を特に重視し、テープ図や数直線、図などの取り組みを各学年で明確化し、発達段階にあわせて指導していく。</li> </ul>

### 4 算数科の授業改善策

<p>○関心・意欲・態度</p> <p>算数的活動を明確化し、復習などの繰り返しを授業で取り組む時間を確保するために、</p> <p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が具体物の操作ができる場面設定を多くする。</li> <li>課題に対して児童が見付けたことがらを中心にした学習のめあてを設定する。</li> </ul> <p>2年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>量と測定では、実際に身の回りにあるものを測ることで、今習っていることが日常で役に立つということに気付かせる。</li> <li>ブロックや時計、水のかさや竹尺などの具体物を使って、活動を多く取り入れた授業を行う。</li> </ul> <p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で算数的活動への取り組みの時間を確保するために、整数、小数、分数の計算の意味や計算の仕方を数字カードなどの具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明できるような機会を設ける。</li> <li>小数や分数の大きさを比べる活動では、リットルやデシリットル、図・数直線を用いて、具体物と関連させて大小比較できるようにする。</li> <li>長さ、体積、重さについては、体験的な活動を通して量感がわかるようにして、理解を深めさせる。</li> <li>二等辺三角形や正三角形では定規やコンパスを用いて自在に作図できるようにし、図形の構成や性質を理解させる。</li> <li>表やグラフでは、基礎的な知識、技能を身に付けさせ、資料を分類整理して分かりやすく表やグラフに表せるようにする。</li> </ul> <p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りから、伴って変わる二つの数量を見付けたり、数量の関係を表やグラフを用いて表したり、調べる活動を多く取り入れる。</li> <li>図形の性質について意欲的に調べるために、平行四辺形、ひし形、台形などのカードを使い、それらのカードを敷き詰める活動を取り入れる。</li> </ul>
---

- 5年
  - ・小数についての計算の意味や計算の仕方を、数直線や式にして書かせ、友達と考えを交流できる場を設ける。
  - ・三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の特徴を、具体物を用いて操作したり考えたりできるようにする。
  - ・合同な図形を書いたり、作ったりさせる活動を多く取り入れる。
- 6年
  - ・繰り返し学習などで、基礎的・基本的な学力を身に付けることで、成功体験を多く積み重ねることができる喜びを実感させていく。
  - ・日常生活に結び付けた題材を多く使うなど、意欲的に取り組めるようにする。

### ○数学的な考え方

自分や友達の考えを書いたり、表現したりする活動を行い、計算などの意味を理解するために、

- 1年
  - ・具体物の操作、ブロックなどの半具体物と言葉のつながりを、明確にするため、視覚に訴える教材を使用する。児童に言葉を繰り返したり、説明させたりする。
  - ・演算決定の判断のための、場面やキーワードを整理して示す。学年で統一して習熟度別クラスで指導者が変わっても同じ指導ができるようにする。
- 2年
  - ・計算や問題の解き方を考え、その解き方のよさを感じさせながら指導していく。
  - ・問題を考えるときに、自分の考えを隣の人に説明する活動を積極的に取り入れる。
- 3年
  - ・わり算、かけ算では、答えの求め方を考える学習活動を取り入れ、□を使った式では未知の数量を□として問題場面を式に表して、□の値を求めたり調べたりする活動を行う。これらを通して問題解決学習に取り組ませる。
  - ・自分の考えを表現する場面を意識的に授業の中に取り入れる。
- 4年
  - ・問題の解き方を考える際に、図や式、テープ図、線分図など、考え方の方法を提示し、自分の考えをノートに書かせる。
  - ・自分の考えを友達に話したり、聞いた友達の考えを話したりする時間を設け、様々な考えがあることを理解させる。
- 5年
  - ・計算や図形の問題では、図、数直線、文などを使って自分の考えをノートに書かせたり、言葉で考え方を説明させたりする。
  - ・習ったことを使ったり、友達の考えを取り入れたりできるよう働きかける。
- 6年
  - ・自分の考えを図や数直線、文章などいろいろな方法で書き表し、ペアやクラス全体で考えを表現する場を設けていく。
  - ・ノートには自分の考えだけではなく、友達の考えやポイントを書くようにする。
  - ・既習の学習内容を想起させ、習ったことを使って考えられるように助言する。
  - ・数直線図等を活用して数量関係をとらえさせること、言葉の式を用いたり、整数や小数などの簡単な数値に置き換えて考えさせたりする。

### ○数量や図形についての技能

計算や図形など、学習したことを定着させ、日常生活や他教科等の学習へ活用し、習熟させるために、

- 1年
  - ・技能の意味を理解させた上で、授業でのリズムある繰り返しを工夫し、家庭でも復習できるように計算カードの練習を保護者に協力を仰ぐ。
  - ・定期的に習熟の状況を把握するためのテストを行い、必要に応じた個別の指導をする。
  - ・身の回りのものに着目させ、児童が自ら見付ける活動を十分に行ってから一般化する。
- 2年
  - ・数と計算では、くり上がりやくり下がり補助的な数字を筆算に書き込むことを継続的に指導していく。
  - ・量と測定では、実際に身の回りにあるものの長さを測ることにより、ものさしの使い方を習熟させる。
  - ・生活の植物観察など、測定する機会を多く取り入れていく。
- 3年
  - ・かけ算やわり算の計算やたし算ひき算の筆算が正確にできるように、百ます計算やプリントを使って繰り返し練習させる。
  - ・二等辺三角形や正三角形をコンパスや定規を用いて作図させる機会を増やし、自在に作図できるようにする。
- 4年
  - ・わり算の定着を図るために、継続的に朝学習や家庭学習の中で復習の時間を設ける。
  - ・日常生活の中でコンパスや分度器を使う機会を増やし、習熟を図る。
  - ・日常の中で、時刻の間の計算をさせる機会を設ける。

- 5年
  - ・小数や分数の計算問題の定着をはかるため、導入や終末で復習時間を設ける。
  - ・朝学習や家庭学習の中で計算問題に取り組みせ、繰り返し練習させる。
  - ・能力に合わせてスモールステップで取り組ませる。
- 6年
  - ・計算スキルやプリントなどの問題を活用し、繰り返し計算練習をすることで定着を図る。
  - ・個人の能力に合わせて問題数を設定し、確実に解けるようにする。
  - ・図形では、体験的・作業的な活動を多く取り入れる。

○数量や図形についての知識・理解

「式の表現と読み」を重視し、テープ図や数直線、図などの取り組みを発達段階にあわせて指導するために、

- 1年
  - ・加法・減法について、1年生の児童の特性を生かし、簡単な物語を構成して具体別から抽象への理解を深める。
- 2年
  - ・立式や問題を解く際に、どうしてそうなるのかを自分のノートに書いたり発表したりする時間をとるようにする。
  - ・問題を図に表す活動を多く取り入れ、図を用いた活動に親しみを持てるようにする。
- 3年
  - ・文章問題において、テープ図や数直線、図など様々な方法を用いて自分の考えを説明できるように、このような活動を授業中に意識的に取り入れ、ノートに自分の考えを書く。
- 4年
  - ・わる数やわられる数などの言葉を理解させる。
  - ・言葉でも立式させて数量の関係を考えさせる。
  - ・量や長さ、面積の単位と測定の意味を理解できるよう、プリントを使って繰り返し練習させる。
  - ・考え方ノートを活用し、指揮を、言葉、図、テープ図、数直線などと関連付けて考えさせ、自分の考えを説明したり、分かりやすく伝えあったりする活動を意識的に取り入れる。
- 5年
  - ・新しく出てきた解き方や言葉は丁寧に押さえ、意味がしっかり理解できるようにする。
  - ・文章問題では、重要語句や数字に注目させる。また、図や表、数直線などいろいろな方法を使って自分の考えをまとめさせる。
- 6年
  - ・授業の中で、既習事項の確認をする場面を設け、繰り返し内容を確認する。

# 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校 理科）

## 1 理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<b>取り組みにおける成果と課題</b>	
<b>成果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすい実験や観察を取り入れたところは、意欲的に学習できた。</li> <li>・課題→予想→予想の理由→実験→結果→考察の学習過程の指導ができたところは、見通しをもって実験や観察に取り組むことができた。</li> <li>・それまでの経験や情報が多いところは、実験結果を予想することができてきた。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察・実験の目的や手順、結果の考察などの一つ一つが理解されていないため、学習したことが定着していない部分が多い。</li> <li>・視聴覚教材が十分に揃っていないため、学習内容が理解されていないところがある。</li> </ul>

## 2 理科における調査結果の分析

<b>内容別結果の分析</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全項目で目標値を10～15ポイント下回っている。また、学年が上がるにつれて前学年時より下がる傾向にある。</li> <li>・「物質・エネルギー」は、実験の目的や手順、結果の考察などの一つ一つが理解されていないため、学習したことが定着しにくい。</li> <li>・「生命・地球」は、実際に植物を育てたり観察したりしたことは、知識として定着しやすい。逆に「天気の様子と気温」「流れる水のはたらき」など、観察の結果が分かりづらいものは定着しにくい。</li> </ul>
<b>観点別結果の分析</b>	<p>○意欲・関心・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年とも区の目標値を15～20ポイント下回っている。目標値達成率は6年は5年時より5ポイント、5年は4年時より2ポイント下がった。</li> <li>・実験は好きだが、実験の目的、方法をよく理解していないために、正しく取り組めないことがある。</li> </ul> <p>○科学的な思考や表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年の平均値は昨年度とほぼ同様だが、目標値達成率は10ポイント下がったことから、成績上位層がいる一方で、児童間の格差が広がっている。5年生も同様の傾向が見られる。学年が上がるにつれて事象を関連づけて思考を深めることが求められるためと考えられる。</li> </ul> <p>○観察や実験の技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察・実験の技能は、5・6年の目標達成率が低い。特に5年生は4年時より目標値達成率は10ポイントほど低下した。実験器具を適宜そろえ、適当な人数で実験ができるようにすることと、実験が児童にわかりやすいものであることが必要である。</li> </ul> <p>○自然事象についての知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生は5年時とほぼ同じ目標達成率だったが、5年生は4年時よりも5ポイント低下した。</li> <li>・自然事象についての知識・理解は学習内容による差が大きい。視聴覚教材やワークシートなどで理解が深まるようにする必要がある。</li> </ul>

## 3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

課 題	改善の方針
<p>○意欲・関心・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な学習をする機会が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察をする機会を多く取り入れ、自分の予想を検証することのおもしろさや、実験や観察をすることで新たな発見をする機会を増やし、関心・意欲を高める。</li> <li>・実験や観察を通して、差異や共通点を考察させる。また、予想を立てて話し合う時間を十分に取る。また、自分の考えを発表する場や少人数で話し合う場を設定する。</li> <li>・実験する前に、その意味と目的について時間をかけて理解させる。また、実験結果について十分に予想させる。さらに、実験後は、結果について正確に記録するとともに考察させる。</li> </ul>
<p>○科学的な思考や表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的に考え、表現をすることが十分ではない。</li> </ul>	
<p>○観察や実験の技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験の技能が十分ではない。</li> </ul>	

<p>○自然事象についての知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然事象についての知識・理解が十分ではない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な学習を増やし、そこで発見したことや検証したことをクラスで共有する。また、視聴覚教材を用いて、定着を図る。</li> </ul>
---	---

#### 4 理科の授業改善策

<p>○意欲・関心・態度</p> <p>実験や観察をする機会を多く取り入れ、自分の予想を検証することのおもしろさや、実験や観察をすることで新たな発見をする機会を増やし、関心・意欲を高めるために、</p> <p>3年 実験や観察をする時間を十分にとり、体験的な活動を増やし、意欲・関心を高める。</p> <p>4年 映像や写真などを使って資料提示を工夫したり、自分の実験キットを使ったりして進んで実験に取り組みせ、意欲向上を図る。</p> <p>5年 実験や観察をする機会を多く取り入れ、体験的な学習を通して関心・意欲を高める。</p> <p>6年 実験や観察をする機会を多く取り入れ、体験的な学習を通して意欲を高めていく。</p> <p>○科学的な思考や表現</p> <p>実験や観察を通して、差異や共通点を考察させる。また、予想を立てて話し合う時間を十分に取る。また、自分の考えを発表する場や少人数で話し合う場を設定するために、</p> <p>3年 実験や観察を通して気づいたことや疑問に思ったことを自分の言葉でノートに書かせる。</p> <p>4年 実験や観察を通して、予想→実験→結果→考察→まとめの順番で学習を進める。予想では、その理由まで書かせ、根拠をもって実験に取り組みさせる。</p> <p>5年 実験や観察を通して、予想→実験→結果→考察→まとめの順番で学習を進める。予想を書かせる時には理由も述べさせる。考察では、結果で出た数値やキーワードを入れながら自分の言葉でまとめさせる。初めはモデルを示す。</p> <p>6年 実験や観察を行う時に、生活体験や既存の知識を使って予想を立てたり考察をしたりする時間を十分に取、少人数グループやクラス全体で自分の考えを発表する場を設ける。</p> <p>○観察や実験の技能</p> <p>実験する前に、その意味と目的について時間をかけて理解させる。また、実験結果について十分に予想させる。さらに、実験後は、結果について正確に記録するとともに考察させるために、</p> <p>3年 実験の方法やポイントを分かりやすく示し、正確に行わせる。</p> <p>4年 実験方法やポイントを図や写真などを使って提示し、正確に行わせる。</p> <p>5年 実験器具の使い方を分かりやすく指導し、児童が実験器具を正しく確実に使えるようにする。実験の目的と、そろえる条件や変える条件を理解させた上で取り組みさせる。</p> <p>6年 実験や観察をする前に、意味と目的を理解させ、実験の方法を考えさせたり、正しい結果を導き出すための方法を十分に理解させたりするようにする。また、結果から考察する時間を十分に確保する。</p> <p>○自然事象についての知識・理解</p> <p>体験的な学習を増やし、そこで発見したことや検証したことをクラスで共有する。また、視聴覚教材を用いて、定着を図るために、</p> <p>3年 実験や観察で理解したことを実生活と結び付けて考えさせる。</p> <p>4年 補足実験を行ったり、ワークシートを活用したりして、身に付けた知識の確実な定着を図る。</p> <p>5年 視聴覚教材や教科書の資料等を活用して知識の定着を図る。</p> <p>6年 視聴覚教材や教科書、資料などを活用して、知識の定着を図る。</p>
--

## 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校 生活科）

### 1 生活科における昨年度の授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果と課題

##### 成果 ○1年生

- 一人ひとりに朝顔の鉢を持たせ関わらせることで、植物の生長の変化を楽しみ、観察の視点をみつけることができた。また、種まき・世話の仕方等を2年生に教えてもらうことで、異学年との交流を深めた。
- 学年花壇を活用することで、植物への関心がひろがった。
- 2年生に連れて行ってもらった学校探検から発展して、グループで学校探検・インタビューを行い、「豊かな心発表会」でも発表した。関心をもって、学校と地域を調べ、多くの人と関わりを持ち、自分の居場所を広げた。
- 校外にも目を向けさせるため、近くの公園などを教育活動の場として活用していく。
- 区立保育園との交流会を通して、自分たちの成長を確認し、2年に進級する意欲や自己肯定感を高めることができた。

##### ○2年生

- 野菜を育てるにあたり、自分で選んだ苗を購入することで、育てる野菜に、より愛着を感じるようになった。
- 学年花壇の野菜は十分な収穫ができた。野菜の世話を通して、生育の様子を観察と収穫の喜びを味わえた。
- 学校探検や、朝顔の種まきの手伝いなど1年生の児童と交流することによって、年少者に対して気遣う心や、年長者として行動しようとする自覚が芽生えた。
- 自然に触れ合う経験の差が大きいため、学習として、ザリガニ釣りや虫取り、どんぐり拾いに取り組んだことは、児童の経験をひろげることができた。
- 「ひろがれわたし」の学習の中で、養護教諭と協力して、「わたしはどこからきたのかな。」の紙芝居を活用し、自分の本作りへの興味が膨らんだ。

##### 課題

- 自然の中に連れて行ってみると、さらに自然に触れる経験に個人差が大きかった。
- 観察記録のとり方に戸惑う児童がいる。
- 「おもちゃ作り」の活動のための道具、材料の保管、活動場所の確保に問題がある。
- いろいろな体験の有無が大きく学習活動に影響する。
- 自己肯定感が低く感じられる児童がいる。

### 2 生活科における調査結果の分析

内容別の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>植物の変化や生長に喜びや親しみを感じながら、継続して世話をすることに個人差がある。</li> <li>地域の自然環境に親しむ体験が少ない。</li> <li>兄弟数が減少していることや、地域の中で異年齢と遊ぶ機会が減少していることもあって、子ども同士のつながりが弱い。</li> <li>「自分は自分で大丈夫」という自己肯定感が低い子が多い。</li> </ul>
観点別の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関心・意欲・態度                             <ul style="list-style-type: none"> <li>生活体験や地域との関わりに個人差がある。</li> </ul> </li> <li>○気付き                             <ul style="list-style-type: none"> <li>植物の生長の様子や変化に気付くことができる。</li> </ul> </li> <li>○思考・表現                             <ul style="list-style-type: none"> <li>気付いたことを観察カードなどに適切に表現することが苦手である。</li> </ul> </li> </ul>

### 3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

課題	改善の方針
<p>○関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>植物の変化や生長に喜びや親しみを感じながら、継続して世話をするに個人差がある</li> <li>地域の自然環境に親しむ体験が少ない。</li> </ul> <p>○気付き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>植物の生長の様子や変化の気付きの質を高める。</li> <li>兄弟数が減少していることや、地域の中で異年齢と遊ぶ機会が減少していることもあって、子ども同士のつながりが弱い。</li> <li>「自分は自分で大丈夫」という自己肯定感を持ってない子が多い。</li> </ul> <p>○思考・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気付いたことを観察カードなどに適切に表現することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>収穫の喜びを味わわせる学習を取り入れる。</li> <li>地域への関心、意欲をもたせ、体験を増やす。</li> <li>生育する植物の種類を多くすることで、植物の育ちに関する気付きの質を高めさせる。</li> <li>学習内容を工夫し、異学年や、地域の人々と一緒に活動する楽しさを味わわせる。</li> <li>保育園児との交流会を通して、自分の成長を実感させ、自己肯定感を高める。</li> <li>観察する際、どこをどのように見たらよいか、具体的に提示する。</li> </ul>

### 4 生活科の授業改善策

<p>○関心・意欲・態度</p> <p>地域への関心、意欲をもたせ、体験を増やすために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験不足については、意図的に季節の変化を感じ取らせ、動植物に関わらせ、世話を通して、自然に触れる機会を設けていく。(一人一人のあさがおの世話、自分で選んだ野菜苗の購入と世話と収穫、校庭や学級園がなくなるので、プランター等を活用した栽培体験。日々の水やり、雑草抜き、追肥などの作業の継続、呑川緑地の虫取り、ふるさとの浜辺公園のたこあげなど)</li> <li>指導者自身も地域の自然や施設について学ぶ。(地域の公園、公的な施設の見学、浦守神社、前の浦商店街等の地域見学と研修を行う。)</li> </ul> <p>○気付き</p> <p>気付きの質を高めたり、活動する楽しさを味わわせたり、自分の成長を実感させ、自己肯定感を高めたりするために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道具、材料の保管と活動の場所の確保をする。改築のため、生活科ルームがなくなるので、倉庫に保存スペースを確保する。道具や材料が不足して経験できないということがないように十分な活動を保証する。(おもちゃ作り・ふれあい交流会)</li> <li>異年齢の集団のつながりの重要性から、現在も実施している2年生と1年生との交流(学校探検・あさがおの種まきなど)、1年生と保育園の年長児との交流会(「できるようになったよの会」「1年生を体験しようの会」)の内容を精査し、楽しさを実感できるような活動を継続する。</li> <li>自己肯定感を育てるために、1年生は「みんなの にこにこ だいさくせん」「もうすぐ2年生」、2年生は「ひろがれわたし」の中で、自分自身の成長に気が付き、成長を実感することのできる活動を行う。また、地域の方をゲストティーチャーとして招き、地域の中で育ち、地域の方と一緒に活動する楽しさを味わわせる。(ふれあい交流会・手作りおもちゃ作りなど)</li> </ul> <p>○思考・表現</p> <p>観察する際、どこをどのように見て記録したらよいか、具体的に提示するために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生では国語の「おおきくなった」と2年生は「かんさつ名人になろう」と関連して、観察の仕方と記録の仕方を習得させる。</li> <li>色・形・大きさ・高さ・太さ・重さ・長さ・触った感じ・におい・数など、身体の諸感覚を使うことを促す。</li> <li>いろいろな方向から見ると丁寧な観察させる。</li> </ul>
---

# 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校 音楽科）

## 1 音楽科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<p><b>取り組みにおける成果と課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音感や歌唱・楽器演奏など、音楽表現をするための意欲と自信の根拠となる技能を低学年から段階的に高めるために毎時間簡単な聴音や階名唱、歌唱や楽器演奏の基礎的な技法を積み重ねたことで、積極的に音楽表現をしようとする児童が増えた。</li> <li>・音楽の要素を表す言葉や読譜を覚えることで、音楽表現をするためにどうしたいかということをはっきりと言葉にできるようにするために、鑑賞と併せて音楽の要素や用語を意識して使えるように「国語で言えば」「算数で言えば」など子供にわかりやすいたとえを使うことで、表現の手法をイメージすることができる児童が増えた。</li> <li>・低学年から楽譜を見て歌ったり楽器を演奏したりする機会を増やし、読譜や基本的な奏法を身に付けられるようにするために、なぞり読みやクイズ形式などを取り入れて階名唱を行うことで、読譜ができる児童が増えた。</li> <li>・音楽の要素や曲想を表す言葉を覚えさせ、旋律の特徴と結びつけて聴くことができるようにするために、国語の物語の読み方を例にして、なぜそう感じたのかの根拠を音楽の言葉で表すことを意識させたことで、音楽の曲想や特徴を音楽の要素の言葉を使って表すことができる児童が増えた。</li> </ul> <p>いずれも、積極的に取り組む子が増えたが、下位層が固定化してしまう傾向がある。</p>
---

## 2 音楽科における現状分析

<p>内容別の分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年になるほど、多人数での合奏や合唱では音楽表現をするが、一人では音楽表現を恥ずかしがる傾向がある児童が増えてくる。</li> <li>・低学年では学習の狙いを明確にし、何ができればよいかをわかりやすくすることで、楽しく音楽活動することができる児童が増えたが、その中にまじることができない児童がいる。</li> <li>・歌唱・器楽ともに基本的な奏法の指導を繰り返したが、器楽の方が音程を取りやすいため、合唱より合奏を好む児童が多いのは変わらない。</li> <li>・読譜や階名唱、リコーダーなどの楽器演奏の技能は楽譜の工夫や読譜のための手立てを講じたが、音楽の授業の時間だけで習得するのは難しく、前年より増えた休み時間に積極的に楽器の練習に音楽室に来る児童と、そうでない児童の間の技能の差が開いている。</li> <li>・鑑賞では楽曲が作られた時代の背景や作曲者のエピソードや、曲の特徴を意識させるように鑑賞カードを作成し、音楽を聴いて受ける感じの根拠を音楽の言葉であらわすということを、国語の物語文で主人公の心情を読み取る場合、その根拠になる言葉をさがすことに例えて授業を行った結果、音楽の要素と関連づけて鑑賞できる児童が増えてきたが、音楽のイメージを感じて身体表現をすることはできるが、それを音楽の要素などの言葉と結びつけて表現することが難しい児童がいる。</li> </ul>
<p>観点別の分析</p>	<p>○意欲関心態度 低学年ほど歌うことや演奏するといった表現活動への意欲が高い。高学年になると自信をもって表現できることや興味をもった曲には積極的にかかわろうとしている。また、ルールを守れない児童が少数いる。</p> <p>○創意工夫 低学年では音楽の特徴を感じて同じように表現しようとする子よりは、単に元気に歌って大きな音を出すことをよとする子が多く、学年が上がるにつれて、読譜や技能の習得の困難さや語彙の少なさから、感受はできるが具体的な表現のイメージの言葉につなげることができない児童が増える傾向にある。</p> <p>○技能 視唱を繰り返したが、音符の中に階名が書いてある3年までに覚え切れていない児童が多い。高学年では読譜のために階名をカタカナで書かないようにして、音符を読ませることを繰り返した結果、読譜ができる児童が増えてきている。歌唱については、低学年の元気に歌うから、高学年の発声・発音・音程といったことを求められるにつれて技能の習得が難しくなってくる。具体的な体の使い方を教え、毎時間発声練習を行っているが、週1～2回の授業だけでは習得することが難しい。器楽では繰り返し個人指導を行っているが、鍵盤ハーモニカ・リコーダーともにタンギングと指遣いの習得に課題がある児童がなかなか減少しない。</p> <p>○鑑賞 低・中学年は曲の感じを身体表現であらわすことは喜んで行うが、音楽の要素を言葉で表現することは難しい。高学年は、楽曲を特徴付ける音楽の要素や旋律の特徴を感じることはできるが、言葉でうまく説明できない児童が多い。</p>

### 3 現状分析に基づいた授業改善のポイント)

課題	改善の方針
<p>○意欲関心 音楽表現することに一人で自信をもって取り組めない児童が学年が上がるにつれて増える。</p> <p>○創意工夫 音楽の要素や曲の特徴を感じてどう表現するか自分で考えたり、友達と意見を交換したりできる児童が少ない。</p> <p>○技能 歌唱や楽器演奏、読譜の習得は個人差が大きく、つまずくと追いつくのが難しい。そのため、高学年になっても読譜や基本的な奏法が身につけていない児童が多い。</p> <p>○鑑賞 音楽を聴いて曲想を感じることはできるが、音楽の要素や曲想を言葉で表現できることが難しい。</p>	<p>・音感や歌唱・楽器演奏など、音楽表現をするための意欲と自信の根拠となる技能を低学年から段階的に高めるとともに、授業のルールを徹底させる。</p> <p>・音楽の要素を表す言葉や読譜を覚えることで、音楽表現するためにどうしたいかということをはっきりと言葉にできるようにする。</p> <p>・低学年から楽譜を見て歌ったり楽器を演奏したりする機会を増やし、読譜や基本的な奏法を身に付けられるようにする。</p> <p>・音楽の要素や曲想を表す言葉を覚えさせ、旋律の特徴と結びつけて聴くことができるようにする。</p>

### 4 音楽科の授業改善策

<p>○意欲関心 音感や歌唱・楽器演奏など、音楽表現をするため意欲と自信の根拠となる技能を低学年から段階的に高めるために、</p> <p>1年 階名唱や鍵盤ハーモニカの演奏や、簡単な楽譜を読むことを繰り返し練習させ、授業の狙いを明確にして、ルールを守って発表の機会を多くし、音楽表現をすることを楽しく感じさせ、自信をもてるようにする。</p> <p>2年 階名唱や鍵盤ハーモニカ、打楽器の演奏や読譜を繰り返し練習させ、グループや個人で歌ったり演奏したりしてお互いに認め合う活動から自信をもてるようにする。</p> <p>3年 階名唱や視唱、リコーダーの演奏や読譜を繰り返し練習させ、特にリコーダーは個別指導をすることでやればできるという意欲と自信をもたせるようにする。</p> <p>4年 互いに練習の成果を聴き合ったり、教え合ったりすることで、友達と積極的に関わる時間を設け、音楽表現をする事への意欲と自信をもたせるようにする。</p> <p>5年 個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組みせ、できることを増やすことで音楽表現への意欲や関心を高める。</p> <p>6年 個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組みせ、楽曲を仕上げることで達成感をもたせ、音楽表現への意欲や関心を高める。</p> <p>○創意工夫 音楽の要素を表す言葉や読譜を覚えることで、音楽表現するためにどうしたいかということをはっきりと言葉にできるようにするために、</p> <p>1年 児童の発言を音楽の要素に結びつけて教師が整理することで、どんな工夫をしてリズム遊びやふし遊びをしたいか考えることができるようにする。</p> <p>2年 音楽から感じ取ったことを音楽の言葉で伝えることができるように言語活動を意図的に行い、リズム遊びやふし遊びの工夫を考えることができるようにする。</p> <p>3年 範唱や範奏や楽譜から楽曲の特徴を感じ取り、自分でどう表現したらよいか音楽の要素と結びつけて考えられるような選曲や楽譜の提示をする。</p>
--

- 4年 範唱や範奏から楽曲の特徴を感じ取ったり、楽譜から楽曲をイメージしたりしたことを音楽の要素に結びつけ、表現の工夫をするために、友達と意見を交換する活動を多く採り入れる。
- 5年 範唱や範奏や読譜から音楽の特徴を音楽の要素と関連させて感じ取り、自分の表現に生かすために楽譜への書き込みやグループでの意見交換を多く採り入れる。
- 6年 範唱や範奏や読譜から音楽の特徴や物語性を音楽の要素と関連させて感受し、自分でどう表現するか考えるために、楽譜への書き込みやグループでの意見交換や発表を多く採り入れる。

#### ○技能

低学年から楽譜を見て歌ったり楽器を演奏したりする機会を増やし、読譜や基本的な奏法を身に付けられるようにするために、

- 1年 歌唱については、大きな声で、音程を意識して歌わせる。器楽は、鍵盤ハーモニカは「鍵盤ハーモニカノート」を使って長期間のスモールステップでタンギングと指遣いを繰り返し練習し、個別指導で確実に身に付けさせる。打楽器は拍感を体感させるように指導する。
- 2年 階名唱を多く採り入れ、読譜を習慣化させる。歌唱は音程と階名の関連づけを意識させて指導する。鍵盤ハーモニカはタンギングと指遣いを繰り返し指導する。打楽器は楽譜を見ながら拍感を体感させる。
- 3年 階名唱や視唱を行い、楽譜上の音と実際の音の関連を意識させる。リコーダーはタンギングや基本的な指遣いを繰り返し指導し、必要に応じて個別指導も行う。
- 4年 楽譜に階名をカタカナで書かずに読めるように音読や階名唱を繰り返し行う。歌唱は発声や発音に気を付けて伸びやかな声で歌えるように体の使い方を指導する。リコーダーは右手の運指やサミングが使われる音域の運指の指導を繰り返し行う。
- 5年 これまでと同様に階名唱や視唱、音符や休符の長さや演奏記号の確認を繰り返し行って知識の定着を図る。発声や発音の基礎練習を行い、体の使い方を体得させるようにする。リコーダーなど楽器の基本的な奏法は繰り返し指導し、必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を採り入れ、取り組みやすくする。
- 6年 階名唱や視唱、音符や休符の長さや演奏記号の確認を繰り返し行って知識の定着を図る。発声や発音の基礎練習を行い、頭声発声のための体の使い方を体得させるようにする。リコーダーなど楽器の基本的な奏法は繰り返し指導し、必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を採り入れ、取り組みやすくする。

#### ○鑑賞

音楽の要素や曲想を表す言葉を覚えさせ、旋律の特徴と結びつけて聴くことができるようにするために

- 1年 音楽を聴いて曲想を体で表現する活動を多く取り入れ、曲を聞いた感じを低学年の言葉と音楽の言葉を結びつけて表す活動をする。
- 2年 音楽を聴いて感じたことや思ったことを音楽の言葉で表現できるように言語環境を整え、音楽の要素と結びつけて発言を整理する。
- 3年 音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現できるように、ワークシートや教室掲示の工夫をする。
- 4年 音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現できるように、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。
- 5年 音楽を、曲想の変化や特徴を音楽の要素と関連させて聴き取ったことを表現するために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。
- 6年 音楽を、曲想の変化や特徴を音楽の要素やこれまで学習したり、生活の中で聴いてきた音楽と関連させたりしながら聴き取ったことを表現するために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。

# 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校 図画工作科）

## 1 図画工作科における昨年度の授業改善推進プランの検証

<b>取り組みにおける成果と課題</b>	
<b>成果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はさみ、のり、段ボールカッター、電動糸のこぎりや彫刻刀などの道具の適切な使い方や材料の接着方法は、前学年から繰り返し指導することで、定着が見られた。</li> <li>・絵の具の使い方の指導を通して、色づくりを進んで行う姿勢に繋がった。</li> <li>・板書により、活動内容の理解し、安全に道具を使用することができる児童が増えた。</li> <li>・鑑賞活動を積極的に取り入れることで、楽しんで友人の作品を見る姿勢が養われた。・個別指導と担任との情報共有により、児童の理解を深めることができた。</li> </ul>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のイメージに合わせて、絵の具の表現を工夫することが難しい児童が多い。</li> <li>・めあてをもって作品をつくるのが難しい児童がいる。</li> <li>・自分の思い付いたものを絵に表す活動が苦手であると感じている児童がいる。</li> <li>・鑑賞した作品の良さや感じたことを、言葉で表す活動が難しい児童がいる。</li> </ul>

## 2 図画工作科における現状分析

<b>内容別の分析</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具や材料の技法は繰り返し指導することで、定着が見られた。特に4年生の児童は3年生の時に造形遊びで段ボールカッターを使用しているため、段ボールカッターを使って形を切っていく活動に、進んで取り組むことができた。前学年で学んだことは次の学年に生かされるため、段階を追った指導が必要である。</li> <li>・絵の具の混色を楽しんで行う姿勢をもつことができているが、自分のつくりたい色をつくったり、絵の具に混ぜる適切な水の量を調節したりする技能に個人差がある。自分のイメージに合わせて表現が工夫できるように、技能の定着を図る必要がある。</li> <li>・絵に表す活動では、学年を通して、人をかくことに苦手意識をもち、自分のイメージに合った表現をすることに難しさを感じている児童がいる。コンテや液体粘土を使うなど、つくりながら考えていく題材を設けることで、児童の関心・意欲に繋がった。幅広い題材を取り入れ、児童が色々な表現手法に触れられるようにしたい。</li> <li>・鑑賞では、周りの友達の表現の特徴を言葉で表すことが難しい児童がいる。友だちの作品に興味をもって児童は多いので、言葉の活用以外の幅広い鑑賞の授業を考えていく必要がある。</li> </ul>
<b>観点別の分析</b>	<p>○造形への関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年を通してつくる活動に興味をもって、積極的に取り組んでいるが、自分の表現を良くしようと、主体的に取り組む姿勢をもつことが難しい児童がいる。材料を用意するなどし、児童が思い付いた表現を試しながら学んでいく環境をつくっていく必要がある。また、児童全員があいさつや、話を聞く時の適切な態度・姿勢をもつことができるように、さらに指導を徹底する必要がある。</li> </ul> <p>○発想や構想の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童それぞれの表現を紹介することで、お互いの表現のよさを取り入れ、つくりたい思いをもって取り組む児童が増えてきている。材料や技法を選択させて、自分の表したいことにあった表現を深められるようにする。発想することが難しい児童には、発想製作の過程やいくつかの表現の例を見せるなどして、題材の提示方法を工夫する必要がある。</li> </ul> <p>○創造的な技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人をかくことが苦手であると感じている児童が多い。児童が表したいイメージが表現できるように、指導方法と題材を工夫する必要がある。前の学年で使った道具は、繰り返し使うことで正しい使い方の定着が見られる。絵の具を使った表現は、定着に個人差があるため、筆づかいや水の量など、目の前で絵の具の使い方を繰り返し見せ、定着を図る。</li> </ul> <p>○鑑賞の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ついては、友人の作品を鑑賞する活動に興味をもって取り組んでいる。特に低学年は、お互いの作品鑑賞に新鮮味をもって、楽しんで行っている。自他の作品の特徴を言葉で表すことが難しい児童がいるため、鑑賞活動と表現活動の関連を図り、形式的な鑑賞にならないように、鑑賞活動の意義を児童と共有する。</li> </ul>

### 3 現状分析に基づいた授業改善のポイント

課 題	改善の方針
<p>○造形への関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の表現を良くするために、主体的に取り組むことが難しい児童がいる。</li> </ul> <p>○発想や構想の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つくりたい思いをもち、自分の表現を深めようとするのが難しい児童がいる。</li> </ul> <p>○創造的な技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や用具の使い方は経験をすることで、定着が見られるが、絵の具を使った技法の定着に、個人差がある。絵に表す活動に難しさを感じている児童がいる。</li> </ul> <p>○鑑賞の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の作品の特徴を捉えることが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの表現を高め合う姿勢を養わせることで、自分のイメージを表現する楽しさを味わい、粘り強く自分の表現に向き合うことができるようにする。</li> <li>・思い付いた表現を試す場を設けることで、表現する過程を重視し、児童自身がめあてをもつことができるようにする。</li> <li>・学年が上がるにつれて表現の幅を広げることができるように、題材を設定し指導する。既習事項を、繰り返し確認することで技能の定着を図る。</li> <li>・鑑賞活動の意義を児童と共有し、児童が表現の工夫に気付き、自分の表現や、身近な作品の鑑賞に生かすことができるようにする。</li> </ul>

### 4 図画工作科の授業改善策

<p>○造形への関心・意欲・態度</p> <p>お互いの表現を高め合う姿勢を養わせることで、自分のイメージを表現する楽しさを味わい、自信をもって粘り強く自分の表現に向き合うことができるようにするために、</p> <p>1年 ・児童の身近なテーマや材料を取り上げ、興味をもって取り組むことができるように指導する。</p> <p>2年 ・活動の中での造形的な試みを見守り、励ましながら、児童自身が満足して表現することができるように指導する。</p> <p>3年 ・自分が表現の主体となって表す楽しさを味わわせ、友人とともに造形活動を行うことに興味をもつことができるように指導する。</p> <p>4年 ・友人とともに表現を高め合い、児童それぞれが自信をもって自らの表現を決定していくことができるように、表現を試すことができる場を設ける。</p> <p>5年 ・友人の表現の過程や参考作品を共有する機会を設ける。お互いの表現を認め合い、それぞれの工夫を表現に生かしていく姿勢を養わせる。</p> <p>6年 ・友人の表現の過程や参考作品を共有する機会を設ける。気が付いたことを基に自分らしい表現を考えられるように指導する。</p> <p>○発想や構想の能力</p> <p>思い付いた表現を試す場を設けることで、表現する過程を重視し、児童自身がめあてをもつことができるようにするために、</p> <p>1年 ・つくる行為の楽しさを満喫させ、自分の好きな色や形をてがかりに、自分が表したいことを見付けられるように指導する。</p> <p>2年 ・かくもの実際に触れさせ、材料と関わる時間を十分に設ける。児童が体全体を使って思い付いた表現方法を試すことができるように、場や材料を設定する。</p> <p>3年 ・ワークシートや板書を活用し、活動のめあてを確認し、自分の表現の意図を考え、つくりながら表現を方向付けることができるように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つくり試しながら、自分に合った表現ができるように指導する。</li> </ul> <p>4年 ・ワークシートや板書を活用し、自分の表現の意図を考え、計画を立ててつくりながら表現ができるように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つくり試しながら、自分に合った表現ができるように指導する。</li> </ul>
---

- 5年 ・ワークシートや板書を活用し、児童が作りたいイメージを整理し、表現したいことを試しながら、自分のイメージをもつことができるように、材料や場を設ける。
- 6年 ・ワークシートや板書を活用し、児童が作りたいイメージを考えられるようにする。作りながら表現を試行錯誤できる場を設け、自分の表現を構想し、納得できる形や色を考える姿勢を養わせる。

#### ○創造的な技能

学年が上がるにつれて表現の幅を広げ、既習事項を繰り返し確認することで技能の定着を図るために、

- 1年 ・はさみの適切な使い方や、美しい切り口や効果を体験させる。適切なのりの分量や接着の仕方について慣れさせる。
- 2年 ・ボンドやのりを使った素材の接着に慣れさせ、材料の組み合わせ方を工夫させる。人をかく活動では腕や足の動きを実際に見せたり、絵の具を使ってかたまりでかかせたりして、児童が自分のイメージを表現できるようにする。
- 3年 ・絵の具に混ぜる水の加減や筆の使い方を、自分のイメージに合わせて工夫できるように、絵の具の水の量や混色、筆使いによる印象の違いを経験できるように指導する。
- 4年 ・自分の表したいことに合わせて、筆につける水の加減や筆の使い方などを工夫できるように指導する。  
・のこぎりの適切な使い方を学び、木材の切断や接合を経験し、用具の使い方を工夫できるように指導する。
- 5年 ・電動糸のこぎりや彫刻刀の適切な使い方を学び、自分の表現の幅を広げられるように指導する。
- 6年 ・電動糸のこぎりや彫刻刀の適切な使い方を確認し、自分の表したいことに合わせて材料の特徴や表し方を考えて表現する力を養う。

#### ○鑑賞の能力

鑑賞活動の意義を児童と共有し、児童が表現の工夫に気付き、自分の表現や身近な作品の鑑賞に生かすことができるようにするために、

- 1年 ・自分や友人の作品を鑑賞する活動を楽しみ、お互いの感じ方や考えの良さを認め合うことができるように指導する。
- 2年 ・ワークシートを用いて、自他の作品に関心を持ち、お互いの感じ方や考えの良さを認め合うことができるように指導する。
- 3年 ・友人と作品について話し合う機会を設け、友人のよさを自分の考えに取り入れ、自分の表現を友人に伝えることができるように指導する。
- 4年 ・自分たちの表現や作品から気付いたことについて、理由を考えて書くことができるように指導する。友人の考えを聞くなどして、児童が自分の気持ちを振り返って書くことができるようにする。
- 5年 ・作品の鑑賞を通して、作者の表現の意図や工夫に気付き、自分たちの作品の表現を高め合うことができるように指導する。
- 6年 ・参考作品を紹介したり、お互いの途中経過を見せ合うことで、児童が作品の表現の意図や工夫に気付き、自分の表現に生かすことができるように指導する。

# 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校 家庭科）

## 1 家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

- ・初めて学ぶ学習に興味と関心をもち、意欲的に取り組んだ。興味のある身近な課題を与えたことで、関心・意欲が高まった。一人作業や少人数グループの学習を取り入れ、衣食住に関わる実践的、体験的な活動を行ったことで、「できる自分」へと成長していることに気づくようになった。これからの自分の成長について展望できるように工夫する。
- ・他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連づけ、家庭生活へ広げて工夫できる児童は少ない。
- ・写真、ビデオ、学び合い、個別指導などを通して、個人差はあるが基礎的・基本的な技能が身に付いた児童は多く、効果的であった。しかし、時間が空くとできなくなってしまう児童が多かった。そのため、継続して確実に技能が定着するように、毎学期ごとに裁縫の学習を行う必要がある。学習を振り返り、繰り返し行うことで、技能の定着に効果的であった。今後も継続していく。
- ・ワークシートや資料の活用・家庭での調べ学習を取り入れたことで、家庭科で学んだ知識を日常生活と関連づけて考えることができた。これからも、継続していく。しかし、実際に家庭生活に生かしている児童は多くない実態がある。

## 2 家庭科における調査結果の分析

内容別の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭生活と家族」については、手伝いをしている児童は多い。しかし、家族の一員として家庭の仕事を分担し継続している児童は多くない。</li> <li>・「日常の食事と調理の基礎」については、調理に対する関心は高く、意欲的に取り組む児童が多い。さらに、家庭との連携を図り、日常生活に活用できるように配慮する。</li> <li>・「快適な衣服と住まい」については、裁縫等の製作には意欲的に取り組む児童が多い。衣生活や住生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てる。</li> <li>・「身近な消費生活と環境」では、環境に配慮することの大切さに気づいている児童が多い。また、物の選択、購入と活用に関する基礎的・基本的な知識と技能が身につけている児童も多い。</li> </ul>
観点別の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭生活への関心・意欲・態度             <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活への関心・意欲は高いが、継続してさらに生活に活かしていこうという意欲には課題がある。</li> </ul> </li> <li>○家庭生活を創意工夫する能力             <ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科で身に付けた知識を家庭科と関連付け、活かそうとする力には課題がある。</li> </ul> </li> <li>○家庭生活の技能             <ul style="list-style-type: none"> <li>・裁縫の基礎的な技能など身に付けようと努力をしている児童が多い。しかし、個人差があり、もう少し練習時間を必要とする児童がいる。また、時間が空くとできなくなってしまう児童が多く、継続して確実に技能が定着するように、毎学期ごとに裁縫の学習を行う必要がある。</li> <li>・調理に対する関心は高く、意欲的に取り組む児童が多いが、実際に家庭生活に生かしている児童は多くない実態がある。子供の実態に即して、家庭の協力を得ながら、知識を理解へつなげていく必要がある。</li> </ul> </li> <li>○家庭生活についての知識・理解             <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理に対する関心は高く、学習・作業共に意欲的に取り組んでいる。子供の実態に即して、家庭の協力を得ながら、知識を理解へつなげていく必要がある。</li> </ul> </li> </ul>

### 3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

課題	改善の方針
<p>○関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習や体験学習には互いに協力して取り組むが、家庭生活への関心を高め、生活に活かしていこうという意欲は十分ではない。</li> </ul> <p>○創意工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連付け、日常生活で気づいて、活かそうとする意欲が十分ではない。</li> </ul> <p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手縫い・ボタン付け・調理等基礎的な技能の個人差が大きい。製作では、最初の意欲が最後まで続くか心配な児童や進度に個人差が見られる。</li> </ul> <p>○知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理に対する関心は高く、学習・作業共に意欲的に取り組んでいるが、日常生活と関連付けて考え、生活上の課題を解決する力が十分とは言えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供達が興味をもてるような身近な課題を与え、手縫い・ボタン付け・調理・住まい・衣服等に関心・意欲をもたせる。基礎的な技能を定着させ、さらに生活に活かせるように、家庭で取り組む課題を与えて、できる事が増えていることに気付かせる。</li> <li>・理科の「沸騰」「環境」などのように、他教科と共通している部分を家庭科で活かすことができるように類似点を理解させ、その気付きを家庭生活へと広げさせる。</li> <li>・写真・ビデオ・練習布・拡大図などを活用し、視覚的にも理解しやすい指導を重視する。また、根気強く作業を進めたり、個別に指導をし、また、友達と励まし合ったりして完成させ、つくる喜びや成就感を味わえるようにする。</li> <li>・保護者の生活の多忙化や食生活の多様化等している中で、子供の生活の実態をしっかりと把握し、家庭の協力を得ながら知識を習得し、理解を深めるように指導をする。</li> </ul>

### 4 家庭科の授業改善策

<p>○関心・意欲・態度</p> <p>子供達が興味をもち、基礎的な技能を定着させ、さらに生活に活かせるようにするために、</p> <p>5年 ・子供に自ら取り組ませるために、授業では興味をもてるような身近な課題を与える。初めて学ぶ学習に興味と関心を持ち、手縫い・ボタン付け・調理・住まい・衣服等基礎的な技能を定着させ意欲的に取り組めるようにする。また、一人作業や少人数グループの学習を進めて、実践的・体験的な活動を通して「してもらう自分」から「できる自分」へと成長していることに気づかせ、これからの自分の成長について展望をもたせる。</p> <p>6年 ・子供達が意欲をもち、課題意識を高めるために、興味をもてるような身近な課題を与え、課題を解決する楽しさや期待がもてるようにする。また、実際に体を動かしたり手を使ったりして、具体的な事柄について学習し、意欲を高める。</p> <p>○創意工夫</p> <p>他教科と共通している部分を家庭科で活かすことができるように類似点を理解させ、その気付きを家庭生活へと広げさせるために、</p> <p>5年 ・授業での縫い物・調理実習等の実践的・基本的な活動が家庭での生活に活かせるように、ワークシート・アンケートや資料の活用・家庭での調べ学習等に取り組ませる。また、自分なりに考えたり、工夫したりできるように、適切な発問を行い、学習意欲を高める。</p> <p>6年 ・他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連付けて、家庭生活で活用できるように自分の生活に目を向けさせる。衣食住について、調べたことや体験したことから得た情報をワークシートにまとめさせて、各自の生活や課題に応じて自分なりに考え、工夫していけるように発表し合うことに取り組ませる。</p>
--

### ○技能

写真・ビデオ・練習布・拡大図などを活用し、視覚的にも理解しやすい指導し、根気強く作業を進めたり、友達と励まし合ったりして、成就感を味わえるようにするために

- 5年 ・手縫い・ボタン付けや調理実習等の基礎的・基本的技能の定着に向け、製作の過程や出来上がりの写真、ビデオの活用、実演、友達同士の学び合い、個別指導等を通して基礎的・基本的な技能の定着に取り組ませる。
- 6年 ・実習や製作では個人差が大きいため、製作見本を細かく準備し、基礎的・基本的な技能を活用し、製作の手順や縫い方を理解させる。そして、個別指導、励ましの声掛けを多くし、児童同士の学び合いを支援し、取り組ませる。また、継続して確実に技能が定着するように、毎学期ごとに裁縫の学習に取り組ませる。

### ○知識・理解

子供の生活の実態をしっかりと把握し、家庭の協力を得ながら知識を習得し、理解を深めるために、

- 5年 ・子供の生活の実態に即して、家庭の協力を得ながら、知識を理解へつなげる。そのために、ワークシートの活用や家庭での調べ学習を取り入れて、取り組ませる。
- 6年 ・日常生活と関連付けて考え、生活上の課題を解決する力を育成する。そのために、自分の生活に目を向けて調べたことや体験したことから得た情報をワークシートにまとめさせる。自分の考えを発表し、意見を交流せることでお互いに学び合う場をつくる。

# 授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校 体育科）

## 1 体育科における昨年度の授業改善推進プランの検証

### 取り組みにおける成果と課題

- ・ルールを工夫したりスモールステップで練習したりできるようにしたことで、運動の楽しさを味わい、進んで運動に取り組めるようになった。
- ・健康や安全な生活についての指導し知識をつけさせることができたが、自分たちの生活に生かすことのできない児童がいる。
- ・学習カードを用いて、毎時の授業のポイントや自分の必要な練習を理解させることで、自分のめあてに向き合いながら意欲的に運動する児童が増えた。
- ・固定遊具を使って、ぶら下がったり回転したりといった運動を多く取り入れたことで、器械運動につながる運動感覚を養うことができた。
- ・低学年では、水遊び、リズム遊び、ボール投げ蹴りなどの運動も動きを工夫して取り組ませることで十分に体を動かすことができたが、さらに自分に合っためあてをもたせ、それに向かって学習に取り組ませる必要がある。

## 2 体育科における調査結果の分析

内容別の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール運動では、チームの時間を十分に取り、声かけや練習を工夫させたことで、チームの仲間と励まし合って運動したり、アドバイスをしたりしてお互い高め合いながら思いきり運動することができた。</li> <li>・運動に対する意欲は高く、すすんで運動に取り組んだり自己のめあてに向かって努力したりする児童が多い。</li> <li>・持久力や水泳は技能差が大きい。</li> </ul>
観点別の分析	<p>○関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関心、意欲は非常に高く、多くの児童が運動に対して意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・勝敗を受け入れたり、お互いを認め合ったりする態度はさらに身に付けさせる必要がある。</li> </ul> <p>○思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の動き方や動きのポイントを知り、自分の力に合った課題を選ぶことができていない。</li> <li>・自己の課題をもち、課題を解決するために練習を工夫することができる。</li> </ul> <p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に水泳、持久力を高める運動において差が大きい。運動を日常的に行っている児童と、運動量の少ない児童で差が出ている。</li> <li>・投げる能力が低くなっている。授業の中で投げる運動を取り入れることが必要である。また、能力が二極化している。</li> </ul> <p>○知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に対する意識はあるが生活のリズムの不規則な児童がいる。夜更かしや朝食をしっかりととらないなどの生活習慣が身に付いていない児童がいる。</li> </ul>

## 3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

課 題	改善の方針
<p>○意欲・関心・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約束を守り、安全に気を付けて運動する。</li> </ul> <p>○思考・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が自己の課題を見付けることや、仲間と励まし合ったりして運動に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に合わせてルールを工夫し、安全に運動するためのきまりなどについて十分指導する。</li> <li>・グループ学習や学び合いの場を設定し、児童が自分の力に応じた練習を選ぶことができるようにする。また、グループ学習を行うことで、友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりできるようにする。</li> </ul>

<p>○運動の技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技能の差が大きい。</li> <li>・持久力を高める取り組み。</li> </ul> <p>○知識・理解（保健）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの生活に生かすこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上月間には、休み時間を通して運動遊びなど運動量を確保する。</li> <li>・校舎改築に伴い、学校生活だけでは運動量を確保することが難しいので、家庭での協力を呼びかける。</li> <li>・ICTや掲示物やカードなどを活用し、技のポイントを分かりやすく提示する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの題材を取り入れ、教材を工夫し、正しく理解できるようにする。</li> <li>・実技などを取り入れ、具体的な対処法を体験する。</li> </ul>
---	---

#### 4 体育科の授業改善策

<p>○意欲・関心・態度</p> <p>児童の実態に合わせてルールを工夫し、安全に運動するためのきまりなどについて十分理解させるために、</p>	
<p>1年</p> <p>2年</p> <p>3年</p> <p>4年</p> <p>5年</p> <p>6年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所（校庭、体育館、プール、第二校庭など）、環境（雨、高温注意報、光化学スモッグ）遊具の正しい使用法（雲梯、鉄棒など）ルール（鬼ごっこの捕まえ方や、逃げ方など）常に、全員が約束事とその理由が分かるようする。</li> <li>・きまりを守ることの大切さや安全に気を付けながら運動することの大切さ気を付けなかった時の危険性を毎時間丁寧に指導し、児童に理解させる。</li> <li>・ゲームでは、児童の実態に合わせてルールを工夫し、安全に運動するためのきまりなどについて指導する。</li> <li>・安全に留意させるとともに児童の実態に応じてルールを工夫し、児童が楽しく、意欲的に運動するように支援する。</li> <li>・単元の最初にオリエンテーションを行い、めあて、学習の流れ、安全面の配慮についての指導を行う。また、友達と協力したり励まし合ったりしている児童を称賛する。</li> <li>・児童の実態に応じてルールを工夫し、児童が楽しく運動できるようにする。</li> <li>・安全に気を付けて運動に取り組めるように十分指導する。</li> </ul>
<p>○思考・判断</p> <p>児童が自分の力に応じた技を選んだり、友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりできるようにするために、</p>	
<p>1年</p> <p>2年</p> <p>3年</p> <p>4年</p> <p>5年</p> <p>6年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のめあてをもつ、仲間と助け合えるように学習をできるだけスモールステップで行い、めあてをもって取り組みやすくする。</li> <li>・補助具や学習順序、体のどの部分に注目するかなどグループ学習で見つけ合ったりできるようにする。</li> <li>・いろいろな場を設定することで、自分の課題に合った場を選び、スモールステップで取り組めるようにする。</li> <li>・友達と見合う活動を取り入れることで、友達の良さから工夫した動きを見付けたり選んだりできるようにする。</li> <li>・課題が易くなるような場や補助具を活用し、児童が自分の力に応じた技を選ぶことができるようにする。</li> <li>・グループ学習を行うことで、友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりできるようにする。</li> <li>・グループ分けを工夫するとともに振り返りの時間を設けることで、友達のよさ、チームのよさに気付かせる。また、教え合ったり励まし合ったりできるように声掛けを行う。</li> <li>・学習カードを活用し、運動で工夫したところ、振り返りが書けるようにする。</li> <li>・一人一人が自分に合った課題をもてるようにする。様々な場を用意したり、学び合いの工夫をしたり、運動のポイントを示したりすることで、課題を解決できるようにする。</li> <li>・児童の実態に合わせた場や補助具を活用し、児童が自分の力に合った課題を選ぶことができるようにする。また、グループ学習やトリオ学習を行うことで、友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりできるようにする。</li> </ul>

### ○運動の技能

授業や体育的活動において、運動量を十分確保し、技のポイントを分かりやすく提示し、主運動につながる感覚づくりの運動を取り入れるために、

- 1年
- ・技能の個人差を少なくするには、日頃の外遊びや、夢中になれる楽しさが大切なので、授業中の運動量を十分に確保する。
  - ・休み時間の外遊びを多くの児童が楽しめるように、授業でも鬼ごっこや、ボール遊び、固定遊具などのできるだけ楽しい課題を用意する。
- 2年
- ・鉄棒を使って、ぶら下がったり回転したりといった器械運動につながる運動感覚をさらに高めていく。
  - ・鬼ごっこやボール遊び、固定施設を使った遊びを多く取り入れ、楽しく遊ぶ中で技能が高まるようにする。
  - ・動きの良い児童を手本として見せ、友達の動きを参考にして自分の動きに取り入れていけるようにする。
- 3年
- ・授業や体育的な活動において、運動量を十分確保する。
  - ・マット運動や鉄棒運動では、映像、掲示物、カードなどを活用し、技のポイントを分かりやすく提示する。
- 4年
- ・学習カードや掲示物などを活用し、自分にあつためあてをもつとともに技能向上のためのポイントを理解させる。
  - ・児童に学習の流れを理解させ、学習規律を徹底することで、運動量を確保する。
- 5年
- ・自己の課題に合った場を用意したり解決方法を示した資料を提示したりする。
  - ・技能が高い児童を手本として見せ、視覚的にイメージをもたせるようにする。
  - ・主運動につながる感覚づくりの運動を多く取り入れる。
  - ・指導を工夫し、運動量を十分確保する。
- 6年
- ・技のポイントを分かりやすく提示する。
  - ・主運動につながる感覚づくりの運動を多く取り入れる。
  - ・単元計画を工夫し、十分に運動量を確保できるようにする。
  - ・視聴覚教材を用いて、正しい動きを理解させる。

### ○知識・理解（保健）

身の回りの題材を取り入れ、教材を工夫し、正しく理解したり、具体的な対処法を体験させたりするために、

- 4年
- ・規則正しい生活習慣を身に付けさせるために、保健の授業を行うとともに、養護教諭・栄養士と連携し、自分の生活習慣や体の発達・発育について正しい理解と健康的な生活を送るための実践的な理解を図る。
- 5年
- ・けがの防止や心の健康について、視聴覚教材を用いて理解させるとともに、生活リズムとつなげて指導する。
- 6年
- ・病気の予防について、様々な資料を活用し、正しく理解させ、学習したことを自分の生活に生かせるようにする。
  - ・視聴覚教材を用いて、知識の定着を図る。